

メンター通信 (VOL. 4)

平成22年6月20日

【愛知県自閉症協会】

新しい年度が始まりました。1～3月は21年度事業の仕上げ、今後の事業展開など様々な時期です。活動自体は数少ない期間でありましたが、逆に困って相談を希望する方が少ないのはうれしいことなのかもしれません。22年度はこの土台を踏まえ、活動の確立に向けていく予定です。

①メンター活動報告(1～3月)

2月27日	ペアレントメンター応用研修	31名
2月28日	メンター支援者研修	71名

メンター研修では、「ペアレントメンターの部」「支援者向けの部」として開催しました。メンターの部には困難事例での対処法などを講義を交えてケースワークをしました。また、支援者向けの部ではメンター事業の紹介、活動紹介、地域活動についての講義と「今後のメンター活動について」パネルディスカッションを行いました。いずれの部について厚生労働省日語専門官から「国としてペアレントメンター事業に期待すること」と題し、メンター事業についての国としてのあり方を学ぶことができました。日頃各地で活躍しているペアレントメンターのみならず、各機関においての専門職の方々に多数ご参加いただき、盛会に終わりました。

②メンター活動報告書の集計(1～3月)

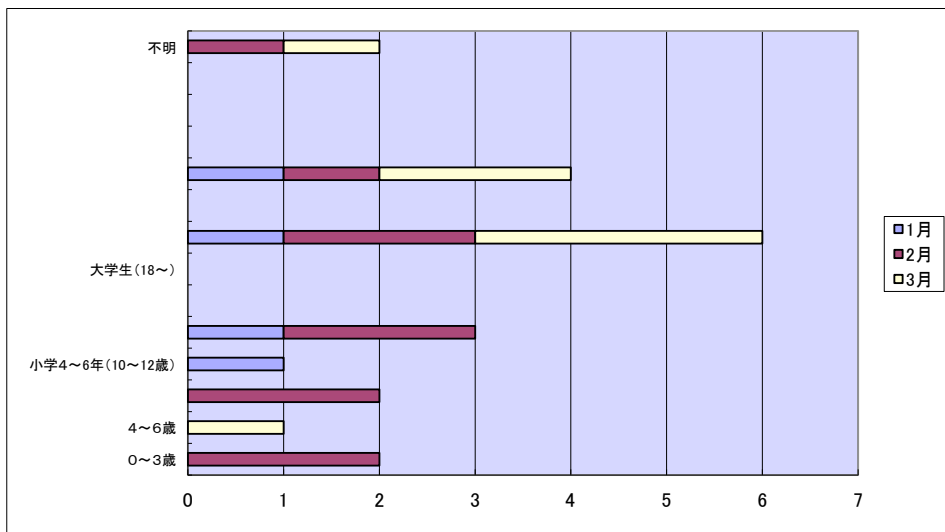
9名の方から合計21件の報告をいただきました。つぼみの会で受けた相談、つぼみ主催の茶話会などの他にメンターが個々に受けた相談も該当します。以下に結果をご報告いたします。
報告数は一つの行事に複数のメンターからのものもありますので、相談件数が詳細数とかならずしも一致しません。ご了承ください。

(1) 相談件数と性別・知的・手帳の推移

* 未記入もあるため合計は一致しません

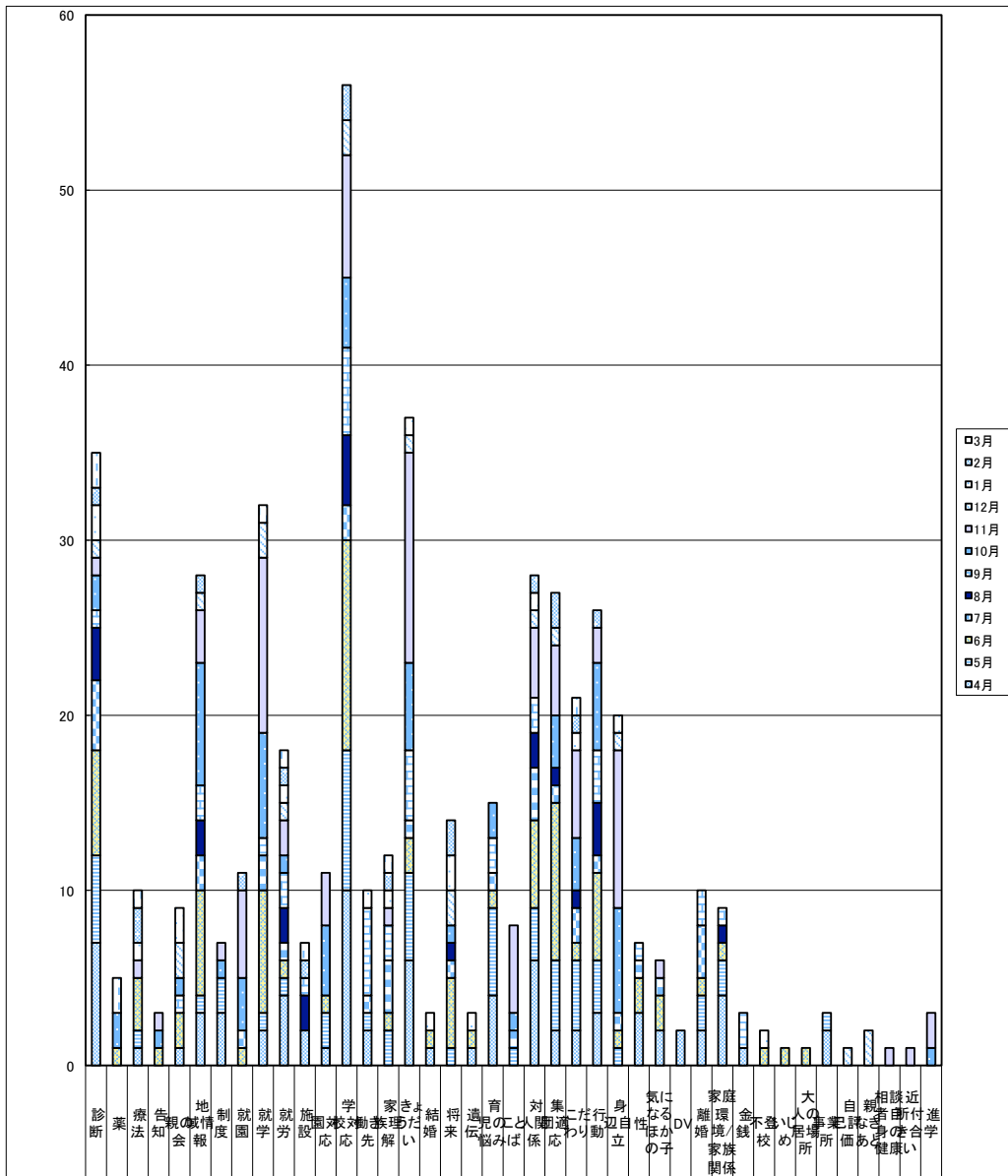
	相談件数	相談対象者		知的障害		療育手帳	
		男	女	あり	なし	あり	なし
1月	5	4	2	1	2		2
2月	9	5	2	3	3	2	3
3月	7	3	4	2	5		2

(2) 相談対象者年齢

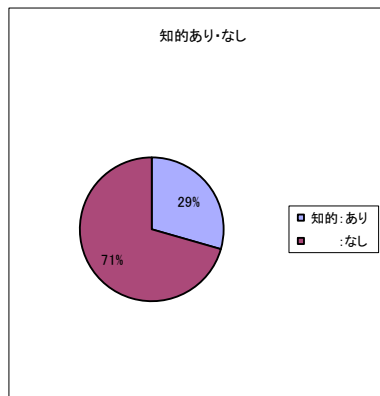
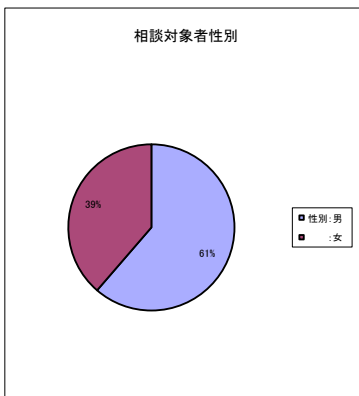


⑤相談内容の年間集計

いただきました報告書を集計し、年間項目をグラフにしました。



【相談対象者に関する年間集計】



⑥活動内容の年間集計

年間通して様々な活動がありました。この二年間の試行事業の活動を元に振り返ってみたいと思います。

【サテライト事業】

20年度、21年度 5箇所73名の方に参加いただきました。17名のペアレントメンターが「サポートブック研修」「障害特性・疑似体験」「ピアカウンセリング」と担当させていただきました。参加された保護者の方には概ねいい評価をいただきありがとうございます。22年度からは愛知県発達障害者支援センターの事業として3箇所で行われることになりました。

【サポートブック研修】

18年度から始まったサポートブック研修は述べ65件、1202名の参加者の方が今までにいらっしゃいました。今年度もすでに22件が確定しています(サテライト事業含む)。現在、6名のスタッフで担当しております。

【疑似体験】

愛知県はキャラバン隊も多く結成されており、キャラバン隊所属のペアレントメンターが多数います。それぞれの活動もあり、愛知県自閉症協会に依頼されるものもあり多種多様に応じております。

【ピア・カウンセリング】

主にサテライト事業で担当しているメンターが多いますが、協会活動の茶話会・相談会・勉強会などで担当しているメンターも多くいます。

2009年度については17名のメンターが述べ92コマの業務にあたりました。今度も活動は続きます。

20年度、21年度に多くの家族支援プログラムにペアレントメンターの方々に活動していただき、無事業を終了する事ができました。今年度、家族支援プログラムの終了時にメンターの方々にアンケートをとらせていただきました。その結果、「自分が相談を受けてアドバイス、お話をさせていただいた内容がはたしてその方に役に立ったのか」「あれでよかったのか」と謙虚に考えて悩まれたメンターや、「自分の子育て、日頃を振り返り改めて自分に役に立った」と書いていただいたメンターもいました。

22年度も従来の親子支援プログラムなどに加え、保育士・幼稚園教諭向け連続研修会、行政窓口研修会にファミリーライターとして参加していただき、益々活動の場面が広がっています。私自身も活動しながらもっと事例検討などで自分を研鑽していかなければ・・・と実感しています。そして、これまでのメンターの方々に加えて地元でも活動を広げるためにもペアレントメンターの養成を待ち望んでいます。

愛知県自閉症協会 副会長 岡田 ひろみ

「今回のゲストコメンテーター」

ペアレントメンターの皆様、日頃の相談活動お疲れ様です。

お子さんが発達障害の診断を受けた場合、お母さんは大きなショックを受けられることと思います。市町村の保健センターや私がかつて勤務していました児童相談センターでもショックを受けた方のご相談をお受けするのですが、相談機関だけでは十分にフォローしきれないことも事実です。

そんな混乱のなか、親子通園施設に通いはじめる方も多いのですが、そこに通っている先輩や仲間のお母さんの力に支えられて、落ち着きや元気をとりもどされる方が、私の経験では何人もありました。もちろん心の中の悩みがすべて解消されることはありませんが、つらい状態から脱するのに同じ立場にある方の力を必要とする方が多く、ペアレントメンターの方のサポートは、大変な思いをしているお母さんにとって大きな支えになっていると思います。

私の中では、以前からこのような認識はあったのですが、あいち発達障害者支援センター（以下「センター」）での連携の流れの中、愛知県自閉症協会が、平成20、21年度にはペアレントメンターの養成のための講座、ペアレントメンターが実際に活動する場として親子支援プログラム事業、親子支援プログラムサテライト事業をモデル事業として行っていただきました。

親子支援プログラムサテライト事業は、就学前の子どもをもつ保護者のためのプログラムで「発達障害理解のための講義、疑似体験」、「サポートブック研修」、「ペアレントメンターによるピア・カウンセリング（グループ）」が主な内容で、多くのメンターの方のご協力がありました。

これらの事業は参加した方々より大変な好評を得て、成果もあがりましたので、平成22年度には、センターの事業としてペアレントメンターの養成講座（ベーシックコース）と親子支援プログラムサテライト事業を行う運びになりました。

センターでは、つぼみの会の全面的なご協力をいただき、連携をとりあってこれらの事業を行っていく予定です。今のセンターの課題は、相談活動を行う中でペアレントメンターの方に大きな負担がかかり過ぎないようにコーディネートを行うことも考えています。

ペアレントメンターの活動が、ご自身の負担になりすぎないように、ゆっくりとしたペースで前進していきますよう、今後ともセンターとの連携をよろしく願います。

元あいち発達障害者支援センター 安ノ井(あんのい)宏隆

⑧今後のお知らせ

1. 21年度もみなさまのご理解・ご協力のもと無事終了することができました。22年度の事業もどんどん入ってきております。メンターのみなさまにはまたお願いすることが多くなっているかと思いますが、よろしくお願いいたします。

2. 22年度については日本財団の助成金をいただくことができ、更なるスキルアップのための研修を計画しております。申込方法は近々ご案内できると思います。詳細については同封資料をご覧ください。

3. メンター通信も一年(4号)が過ぎました。22年度からのメンター通信は財団助成のもと続けて参ります。吉川先生のコメントにもありましたように全国的にも注目されつつあるこのメンター通信です。今後は内容を今まで以上に充実させたものにさせていく計画であります。是非ご意見いただければ幸いです。

つきましては、4～6月の活動報告を7月13日までにつぼみの会事務所までご連絡いただきますようお願いいたします。(報告なしの方もかならずご回答のほどよろしくお願いいたします。)

4. 22年度はサテライト事業が3箇所、サポートブック研修が22件、行政窓口研修、保育士研修、支援者養成研修、施設職員セミナーなどの活動にすでに入っています。今年度、あいち発達障害者支援センター主催のベーシック研修が10月に開催され愛知県に30名のメンターが新たに養成されます。

5. 22年度のメンター通信は、メンターからの活動報告などを盛り込んでバージョンアップしていく予定です。メンターさんにコメントをお願いする事があると思いますが、その際はよろしくお願いいたします。

第四回集計をふまえて(吉川 徹先生より)

ペアレントメンターの皆様、お元気で過ごしてでしょうか。

さて2月の応用研修にご参加いただいた方には、すでにお伝えしていますが、平成22年度よりいよいよペアレントメンター事業が、国の施策として本格的に実施される方向となりました。長妻厚生労働大臣は平成22年2月15日の衆議院予算委員会の中で、「親の会等の御指導をいただくペアレントメンター育成事業など新規の事業も我々は打ち立てております。」と発言され、それに沿った具体的な施策が打ち出されています。平成22年度には愛知県でもいよいよあいち発達障害者支援センターの主催によるベシック研修が開催される運びとなりました。

こうした動きには、ペアレントメンターなどという言葉が日本にまだ伝わっていなかった頃からの、各地での親御さん達が忍耐強く続けてきた活動と、ペアレントメンターの養成プログラムの開発から始まり実践につなげてきた日本自閉症協会や専門家の先生方の多大な努力が大きな推進力となってきています。また忘れてはならないのが、愛知県からの情報発信です。愛知県はメンター活動の先進地の一つとして、平成21年度には全国に先駆けて応用研修を実施し、行政担当者を対象とした研修を実施しました。そして皆さんに書いていただいている活動報告とこのメンター通信にも大きな注目が集まっています。皆さんのこれまでの地道な活動の積み重ねが、施策としてのメンターの活用につながっているのだと思います。

今後ペアレントメンター活動を全国的な施策として実際に役に立つものにしていくためには、基礎となる資料がぜひとも必要となります。メンターがどのように時間を使ってどんな活動をしているのか、地域にはどんなニーズがあってメンターがどのように応えてゆけるのか、メンターが困っていることや必要としているサポートなどを、客観的に把握しそれを広く発信していくことが必要です。それによって全国にメンターの活動を広げてゆき、また個々のメンターがあまりに無理をすることなく、長く活動を続けていくために必要な支援体制を構築するための方法が確立されてくると考えています。

そしてもう一つ、この事業仕分けの時代に、今後取り組んでいかなければいけないのは、メンターの活動がどのように役に立っているのかということ客観的に示すこと、そしてメンターの活動がメンターにとっても利用者にとっても安全でコストに見合ったものであることを示していくことです。これについても皆さんと相談しながら、愛知県でもいざれ考えてゆきたいと思っています。

どうぞ新年度を期に気持ちも新たに活動に取り組んでいただきますこと、また愛知県の活動のため、また全国で活動する親御さんたち、子ども達のためにも、ぜひ活動報告の集計にご協力をいただきますことを、お願いいたします。

<編集後記>

この一年、慣れない編集作業に明け暮れた日々でした。しかし実践の場から一歩離れて見ると、違う点が見えてきたことも確かです。その視点で2月の応用研修は先生方に講義をお願いしてまいりました。研修前には【ストレス解消をどのようにしていますか?】とアンケートを試みたところ、スポーツ・買い物・カラオケ・おしゃべり・コンサート・食べる!・呑む!・・・と、メンターのみなさんはそれぞれストレス解消をうまくこなしているようで頼もしくなりました。やはりメンターはすごい!と・・・。

22年度の新たな目標も見えてきた昨年、メンター通信をもっと充実させるようにとの財団からのリクエストが……。ますますパソコンと格闘する日々が濃い一年になりそうです。

時は春・・・(もう夏のような陽気ですが)この春新しい門出を迎えられたみなさま、おめでとうございます。順調に進んでいる事を祈ります。我が家の息子は新しい環境になかなか慣れることができず、二次障害手前でなんとか踏みとどまってくれているようです。今は綱渡り……。毎日なんとか過ごしています。(家では毎日大荒れですが)

これから不安定な気候になってきます。みなさまお体ご自愛ください。子ども達のためでもあります。一番には自身のために……。

発行者:愛知県自閉症協会(つぼみの会)

〒460-0013 名古屋市中区上り津2-14-25 上り津中央マンション202

TEL/FAX 052-323-0298 E-mail tubomi-aa@nifty.com

編集担当者:支援部 加藤 香